

他大学研究科（東洋英和女学院大学大学院）における 科目履修方法について

1. 出願方法

履修希望者は指導教員の許可を得て、必要書類を受付期間内に社会科学総合学術院事務所に提出してください。

2. 対象

社会科学研究科修士課程に在籍する正規生

3. 出願期間

2020年4月1日（水）～4月3日（金） 事務所開室時間内

4. 出願書類提出場所

早稲田大学社会科学総合学術院事務所（14号館3階）

5. 出願書類

- (1) 2020年度前期東洋英和女学院大学大学院交流学生願書
（指導教員の確認印を押印したもの）
- (2) 写真2枚（縦3×横2.5cm、うち1枚は申請書に貼付）

6. 単位

- (1) 交流学生が履修できる単位数の上限は在学中10単位です。
- (2) 交流学生の単位の授与および成績評価等については東洋英和女学院大学大学院の成績基準によりますが、修得した単位の認定にかかわる事項は早稲田大学大学院社会科学研究科が定めるところによります。

7. 受講料

無料（ただし、授業科目ごとに徴収する実習費等は交流学生の自己負担となります）

8. 履修申請の結果

提出された履修申請については、東洋英和女学院大学大学院国際協力研究科委員会においてその可否について協議し、その結果を履修申請者及び早稲田大学大学院宛に文書にて通知します。
なお、東洋英和女学院大学大学院正規生の履修者がいない科目については休講となります。

9. 開講科目（いずれも春学期科目・秋学期科目は9月に公開予定）

科目名	教員名	曜日時限
研究手法ワークショップ	福田 保	土曜日1限〔9時00分～10時30分〕
東アジア地域特論	望月 敏弘	土曜日2限〔10時40分～12時10分〕
中近東・アラブ地域特論	池田 明史	木曜日6限〔18時30分～20時00分〕
アフリカ地域特論	望月 克哉	土曜日6限〔18時00分～19時30分〕
ヨーロッパ・スラブ地域特論	小久保 康之	月曜日7限〔20時10分～21時40分〕
国際関係特論	今野 茂充	火曜日7限〔20時10分～21時40分〕
国際NGO特論	吉川 健治	土曜日4限〔14時40分～16時10分〕
国際教育協力問題特論	桜井 愛子	木曜日7限〔20時10分～21時40分〕

10. その他

- (1) 履修が許可される迄の間暫定的に当該科目を受講することができます。
- (2) 初回授業で東洋英和女学院大学大学院を訪れる際は、必ず事前に東洋英和女学院大学大学院事務室へ電話もしくはメールで連絡してください。

2020 年度東洋英和女学院大学大学院前期学事暦

4月27日(月)	前期授業開始
7月4日(土)	休講(入学試験の為)
8月1日(土)	前期授業終了
8月3日(月)	夏季休業期間 [~9月18日(金)]

東洋英和女学院大学大学院事務室

〒106-8507 東京都港区六本木 5-14-40 TEL: 03(3583)4031

daigakuin@toyoeiwa.ac.jp

早稲田大学社会科学総合学術院事務所
〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1
TEL:03-3204-8952
<https://www.waseda.jp/fsss/gsss/>

交流学生番号*	
---------	--

*記入しないで下さい

2020 年度前期 東洋英和女学院大学大学院 交流学生 願書

ふりがな					写真貼付 3 cm×2.5 cm 上半身、無帽 撮影後3カ月以内のもの	
氏名						
生年月日	年	月	日生	年齢		歳
電話番号	()					
携帯電話番号	()					
現住所	〒 -				性別	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女
所属研究科専攻	早稲田大学大学院社会科学部研究科				専攻	
学籍番号						
メールアドレス	@					

	受講希望科目名	担当教員
1		
2		
3		

故意または過失により東洋英和女学院大学大学院または第三者に対して損害を与えた場合は、当該損害を自ら賠償する責を負います。

署名： _____

《以下、大学使用欄》

指導教員	早稲田大学大学院 社会科学部研究科長	早稲田大学社会科学 総合学術院事務所	東洋英和女学院大学 大学院事務室	東洋英和女学院大学 大学院 国際協力研究科長
年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日

GSC0100800 国際NGO特論		単位	開講期	担当教員
		2	2020年度 前期	吉川 健治
テーマ内容	長く援助の基本姿勢は、経済成長を目的とした経済協力がその主眼とされてきたが、人々の生活に密着した社会開発分野に注視する姿勢が重要とされている。教育、保健衛生などの生活分野、子ども、女性を対象とする社会開発は、人々と共に事業を推進するNGOがその役割を十分に発揮できる分野でもある。社会開発が援助協力の重要な要素であるという認識とともに、アクター（主体）としてのNGOに対する注目や期待が高まっている。では、NGOとはどのような団体でどのような使命に応えどのような事業を展開しているのだろうか。これらを検証するのが本講義の目的である。			
到達目標	NGOと呼ばれる行為主体は現在国際社会にあって、どのような位置にあり、役割を果たすべきかを理解する。			
授業時間外の学習（予習復習等）	国際NGOの現状と課題 国際NGOは世界に変革をもたらす可能性はあるか			
授業計画	<p>第1回 非国家行為体としてのNGO。グローバル公共空間 発表者はレジュメを作成し発表する。受講生はそれを基に議論する。担当講師が議論に参加するとともに適切なアドバイス等を行い、受講者全員の理解を促す。</p> <p>第2回 現代社会におけるNGOの存在意義 発表者はレジュメを作成し発表する。受講生はそれを基に議論する。担当講師が議論に参加するとともに適切なアドバイス等を行い、受講者全員の理解を促す。</p> <p>第3回 NGOの台頭の歴史的背景 発表者はレジュメを作成し発表する。受講生はそれを基に議論する。担当講師が議論に参加するとともに適切なアドバイス等を行い、受講者全員の理解を促す。</p> <p>第4回 NGOの組織公益と組織要件 発表者はレジュメを作成し発表する。受講生はそれを基に議論する。担当講師が議論に参加するとともに適切なアドバイス等を行い、受講者全員の理解を促す。</p> <p>第5回 NGOと国家、国際機関、企業 発表者はレジュメを作成し発表する。受講生はそれを基に議論する。担当講師が議論に参加するとともに適切なアドバイス等を行い、受講者全員の理解を促す。</p> <p>第6回 貧困問題とNGO 発表者はレジュメを作成し発表する。受講生はそれを基に議論する。担当講師が議論に参加するとともに適切なアドバイス等を行い、受講者全員の理解を促す。</p> <p>第7回 地球環境保全とNGO 発表者はレジュメを作成し発表する。受講生はそれを基に議論する。担当講師が議論に参加するとともに適切なアドバイス等を行い、受講者全員の理解を促す。</p> <p>第8回 国際人権保障とNGO 発表者はレジュメを作成し発表する。受講生はそれを基に議論する。担当講師が議論に参加するとともに適切なアドバイス等を行い、受講者全員の理解を促す。</p> <p>第9回 人道支援とNGO 発表者はレジュメを作成し発表する。受講生はそれを基に議論する。担当講師が議論に参加するとともに適切なアドバイス等を行い、受講者全員の理解を促す。</p> <p>第10回 軍縮・平和運動とNGO 発表者はレジュメを作成し発表する。受講生はそれを基に議論する。担当講師が議論に参加するとともに適切なアドバイス等を行い、受講者全員の理解を促す。</p> <p>第11回 NGO-市民社会における組織形成 発表者はレジュメを作成し発表する。受講生はそれを基に議論する。担当講師が議論に参加するとともに適切なアドバイス等を行い、受講者全員の理解を促す。</p> <p>第12回 企業責任に関する規範の形成 発表者はレジュメを作成し発表する。受講生はそれを基に議論する。担当講師が議論に参加するとともに適切なアドバイス等を行い、受講者全員の理解を促す。</p> <p>第13回 グローバリゼーションと反グローバリゼーション 発表者はレジュメを作成し発表する。受講生はそれを基に議論する。担当講師が議論に参加するとともに適切なアドバイス等を行い、受講者全員の理解を促す。</p>			

	<p>第14回 オルタ・グローバリゼーション運動 発表者はレジユメを作成し発表する。受講生はそれを基に議論する。担当講師が議論に参加するとともに適切なアドバイス等を行い、受講者全員の理解を促す。</p> <p>第15回 まとめ</p>
教科書	
参考文献等	<p>毛利聡子『NGOから見る国際関係ーグローバル市民社会への視座』 法律文化社 2011 坂本治也編『市民社会論』 法律文化社 2017</p>
成績評価の方法・基準	<p>授業内での発表、必要に応じてレポートの提出を求める。</p>
履修者への要望	
備考	<p>国際協力研究科国際協力専攻国際協力領域国際協力専門科目</p>

GSC0101000 国際教育協力問題特論		単位	開講期	担当教員
		2	2020年度 前期	桜井 愛子
テーマ内容	<p>本授業では、国際社会が先進国、途上国の別なく、持続可能な開発目標（SDGs）の達成を目指すグローバル環境において、国際教育を「国際理解教育」「国際教育協力」の二面から捉え、「持続可能性」の観点から理解する。まずはじめに、「持続可能な社会」に対する基礎知識を踏まえて、持続可能な社会を創る教育について学習する。続いて、教育段階別に人類の成長基盤を創るための教育の役割について理解を深める。続いて、「平等と公正」「インクルージョン」の観点からSDGsと教育の役割を理解する。最後に、国際理解教育、国際教育協力の双方における諸課題について、受講生の関心のあるテーマから国際教育をめぐる課題の解決に向けた事例について扱い、国際教育の役割について討議を行う。</p>			
到達目標	<p>①持続可能な社会づくりの観点から、国際理解教育、国際教育開発についての基礎的知識を理解すること。 ②授業での講義、文献講読、討議を通じて得られた知識をもとに、発表課題を設定し、得られた知見と自らの意見を反映した議論を展開できるようになること。</p>			
授業時間外の学習（予習復習等）	<p>毎回課題を指定し、授業内では学生によるレジメ発表をもとにした議論を行うため、事前に課題を熟読されたい。また、各回の授業テーマに従って理解を深める参考図書を紹介するので、復習として参照すること。</p>			
授業計画	<p>第1回 イントロダクション：SDGs時代の教育の役割（第1章） 第2回 SDGs時代の教育の役割（第2章、第3章） 第3回 教育の段階別アプローチ：基礎教育（第4章） 第4回 教育の段階別アプローチ：幼児教育（第5章） 第5回 教育の段階別アプローチ：高等専門教育（第6章） 第6回 教育の段階別アプローチ：高等教育（第7章） 第7回 教育の平等と公正：マイノリティ（第8章） 第8回 教育の平等と公正：ジェンダー（第9章） 第9回 教育の平等と公正：インクルーシブ教育（第10章） 第10回 教育の平等と公正：リテラシーとノンフォーマル（第11章） 第11回 国際教育協力に関する事例研究① 第12回 国際教育協力に関する事例研究② 第13回 国際教育をめぐる諸課題（課題発表）① 第14回 国際教育をめぐる諸課題（課題発表）② 第15回 課題提出</p>			
教科書	<p>北村 友人・佐藤 真久・佐藤 学（著，編集）(2019) 『SDGs時代の教育：すべての人に質の高い学びの機会を』学文社</p>			
参考文献等	<p>その他、論文等授業で適宜指示する。</p>			
成績評価の方法・基準	<p>授業参加50%（出席、レジメ発表、議論への参加を含む）、課題発表並びにレポート50%。課題については、初回の授業で説明します。</p>			
履修者への要望	<p>積極的な議論への参加を求めます。毎回の授業は、講義、文献講読を踏まえた議論形式で行います。</p>			

GSB0100100 国際関係特論		単位	開講期	担当教員
		2	2020年度 前期	今野 茂充
テーマ内容	この授業では、国際関係理論に関する基本的な知識を習得しながら、理論を使って歴史的な事例や対外政策上の課題について分析する方法を学んでいきます。まずは、ジョセフ・ナイとデビッド・ウェルチの『国際紛争』（原書第10版）をテキストにして、基礎を固めていきます。その後、受講者の関心や英語力も考慮しながら、テーマを選定し、専門的な文献を読み進めていくこととなります。			
到達目標	1) 国際関係の理論研究の方法論について理解を深めること。 2) 国際関係理論の主要3学派（リアリズム、リベラリズム、コンストラクティヴィズム）と英国学派について理解を深めること。 3) 国際政治学における理論研究と歴史研究の共通点・相違点を理解すること。 4) 過去・現在・未来の国際秩序について、アカデミックな議論ができるようになること。			
授業時間外の学習（予習復習等）	授業の初回の文献リストを提示する予定です。各回ごとに指定された文献と合わせて、関連する文献を自主的に読み進めていくことが求められます。			
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 国際政治学と安全保障研究 *ナイ、ウェルチ『国際紛争』第1章「世界政治における紛争と協調には一貫した論理があるのか？」 ※受講者による報告および問題提起とディスカッションを中心に議論を進める。</p> <p>第3回 国際安全保障研究の基礎概念と分析レベル ナイ、ウェルチ『国際紛争』第2章「紛争と協調を説明する一知の技法」 ※受講者による報告および問題提起とディスカッションを中心に議論を進める。</p> <p>第4回 近代の国際政治史と「勢力均衡」 ナイ、ウェルチ『国際紛争』第3章「ウェストファリアから第一次世界大戦まで」 ※受講者による報告および問題提起とディスカッションを中心に議論を進める。</p> <p>第5回 国際連盟と第二次世界大戦 ナイ、ウェルチ『国際紛争』第4章「集団安全保障の挫折と第二次世界大戦」 ※受講者による報告および問題提起とディスカッションを中心に議論を進める。</p> <p>第6回 冷戦期の国際政治と抑止 ナイ、ウェルチ『国際紛争』第5章「冷戦」 ※受講者による報告および問題提起とディスカッションを中心に議論を進める。</p> <p>第7回 冷戦終結後の国際紛争 ナイ、ウェルチ『国際紛争』第6章「冷戦後の紛争と協調」 ※受講者による報告および問題提起とディスカッションを中心に議論を進める。</p> <p>第8回 ユーラシア大陸の引火点 ナイ、ウェルチ『国際紛争』第7章「現在の引火点」 ※受講者による報告および問題提起とディスカッションを中心に議論を進める。</p> <p>第9回 経済のグローバル化と相互依存関係 ナイ、ウェルチ『国際紛争』第7章「グローバリゼーションと相互依存」 ※受講者による報告および問題提起とディスカッションを中心に議論を進める。</p> <p>第10回 情報革命と世界政治の変容 ナイ、ウェルチ『国際紛争』第9章「情報革命と脱国家主体」 ※受講者による報告および問題提起とディスカッションを中心に議論を進める。</p> <p>第11回 勢力均衡論の再検討</p> <p>第12回 事例研究) 第一次世界大戦の原因</p> <p>第13回 事例研究) 第二次世界大戦の原因</p> <p>第14回 事例研究) 中国台頭と21世紀の国際秩序</p> <p>第15回 補講</p>			
教科書	ジョセフ・S・ナイ・ジュニア、デイヴィッド・A・ウェルチ（田中明彦・村田晃嗣訳）『国際紛争』[原書第10版] 有斐閣、2017年。（※他の文献については、初回の授業の際に提示する予定です）			
参考文献等	<p>グレアム・アリソン（藤原朝子訳）『米中戦争前夜―新旧大国を衝突させる歴史の法則と回避のシナリオ』（ダイヤモンド社、2017年）。</p> <p>中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』（有斐閣、2013年）。</p> <p>Christian Reus-Smit and Duncan Snidal, eds., The Oxford Handbook of International Relations (Oxford: Oxford University Press, 2008).</p> <p>Colin Elman and Michael A. Jensen, eds., Realism Reader (London: Routledge, 2014).</p>			
成績評価の方法・基準	授業への参加・貢献度と学期末のレポート。			

履修者への 要望	
備考	国際協力研究科国際協力専攻国際社会領域国際社会専門科目

GSA0200600 ヨーロッパ・スラブ地域特論		単位	開講期	担当教員
		2	2020年度 前期	小久保 康之
テーマ内容	<p>21世紀のヨーロッパ・スラブ地域では、EU (European Union、欧州連合) という超国家的な地域機構が中核となっている。EU統合の試みは、加盟国間の戦争を不可能にし、主権移譲を伴う国家間の協調体制を確立しようという歴史的な実験である。本講では、EUという超国家的な枠組みがどのようなプロセスを経て今日に至ったのか、その特徴はどこにあるのか、といったEU統合の本質に迫ると同時に、ヨーロッパ・EUが現在直面している複数の危機について考察する。</p> <p>授業は、前半はヨーロッパ・EU統合の歴史・現状について履修者の報告をベースにしながらか討論を行い、理解を深める。後半では、現在のヨーロッパ・EUが抱える危機や国際社会におけるヨーロッパの位置づけについて履修者による報告をベースに教員と履修者全員で討論を行う。</p>			
到達目標	<p>EU統合の歴史を学び、その統合プロセスの紆余曲折について理解できるようにする。現在のヨーロッパが直面している危機の本質について理解し、ヨーロッパ地域が抱える課題を考察することが、国際社会全体にとってどのような意義があるのか議論できるようにする。</p>			
授業時間外の学習(予習復習等)	<p>授業は毎回、履修者の報告をベースとした討論を想定しているため、発表予定者は事前の準備が必要であり、他の履修者も討論に参加できるように事前学習することが要求される。さらに、授業での議論を踏まえて、履修者自身が考察を加える作業を事後に行うことで、次の授業展開につなげることができるようになる。</p>			
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：EU・ヨーロッパの現状、授業の進め方について 第2回 EU統合の歴史とヨーロッパの復興（1）1945-1980：履修者の報告と討論 第3回 EU統合の歴史とヨーロッパ再編（2）1980-1991：履修者の報告と討論 第4回 EU統合の歴史とヨーロッパの再編（3）1992-2004：履修者の報告と討論 第5回 拡大EUの誕生と新しいヨーロッパ2004-2018：履修者の報告と討論 第6回 EUの政治的正統性を巡る課題：履修者の報告と討論 第7回 英国のEU離脱問題：履修者の報告と討論 第8回 ユーロ危機とは何か：履修者の報告と討論 第9回 ヨーロッパにおける移民・難民問題とは：履修者の報告と討論 第10回 ヨーロッパにおけるポピュリズムの現状：履修者の報告と討論 第11回 欧州議会選挙の結果分析：履修者の報告と討論 第12回 EU・ロシア関係の動向：履修者の報告と討論 第13回 米・EU関係の動向：履修者の報告と討論 第14回 日・EU関係の動向：履修者の報告と討論 第15回 補講日</p>			
教科書	<p>「欧州統合史」益田実・山本健編著、ミネルヴァ書房（2019年）ISBN:978-4-623-08491 「欧州複合危機」遠藤乾、中公新書（2016年）ISBN：978-4-12102-405-3</p>			
参考文献等	<p>「ヨーロッパ・デモクラシー」宮島喬他（編）、岩波書店（2018年）ISBN:978-4-00-025471-7 「EUは危機を超えられるか」岡部直明（編著）、N T T出版（2016年）ISBN：978-4-7571-2360 「再国民化」に揺らぐヨーロッパ」高橋進・石田徹（編）、法律文化社（2016年）ISBN：978-4-589-03737-4 「EU統合を読む」小久保康之（編）、春風社（2016年）ISBN：978-4-86110-483-1 「EUを知るための63章」羽場久美子（編著）、明石書店（2013年）ISBN：978-4-7503-3900-9</p>			
成績評価の方法・基準	<p>①授業への参加（50%）、②報告の内容（50%）を総合的に勘案して評価する。</p>			
履修者への要望	<p>授業での積極的な発言・質問を期待したい。</p>			
備考				

GSA0200500 アフリカ地域特論		単位	開講期	担当教員
		2	2020年度 前期	望月 克哉
テーマ内容	アフリカ開発の諸課題			
到達目標	アフリカ地域における開発課題を理解するとともに、それらをめぐる取り組みを考察する。			
授業時間外の学習(予習復習等)	アフリカ開発について授業時に紹介できる内容(事例等)は限られているので、参考文献等を利用して知識の幅を広げるようにしてほしい。とくに発表・報告については、参考資料・情報の提示を含めて、プレゼンテーションの充実を心掛けてもらいたい。			
授業計画	<p>第1回 オリエンテーションとして、授業計画について紹介する。</p> <p>第2回 アフリカ開発の歴史 その1 植民地期における経済・社会開発</p> <p>第3回 アフリカ開発の歴史 その2 新興国家による野心的開発</p> <p>第4回 アフリカ諸国の経済開発をめぐる論争 経済自立か、経済構造改革か</p> <p>第5回 国家的・集团的自立の開発戦略 事例：アフリカ統一機構「モンロビア宣言」(1979年)と「ラゴス行動計画」(1981年)</p> <p>第6回 国際開発金融機関主導の経済構造調整 事例：世界銀行報告書『サハラ以南アフリカの開発促進』(1981年)</p> <p>第7回 農村開発の課題 その1 事例：農村総合開発(Integrated rural development)の理想と現実</p> <p>第8回 農村開発の課題 その2 事例：生活改善プログラム(Livelihood Improvement Program)の展開と浸透</p> <p>第9回 農村開発の課題 その3 事例：地域社会開発(Community Development)の可能性</p> <p>第10回 社会開発の課題 その1 事例：初等教育普及の取り組み</p> <p>第11回 社会開発の課題 その2 事例：保健・医療分野におけるサービス提供</p> <p>第12回 社会開発の課題 その3 事例：環境保全の取り組み</p> <p>第13回 貧困削減 その1 事例：世界銀行による貧困削減戦略文書(Poverty Reduction Strategy Paper)</p> <p>第14回 貧困削減 その2 事例：草の根組織の取り組み</p> <p>第15回 総括ディスカッション：アフリカ開発の今日的課題とは何か？</p>			
教科書	特定のテキストは用いない。			
参考文献等	第1回のオリエンテーションでは基本文献を、各回の授業では参考文献を紹介する。			
成績評価の方法・基準	授業時の発表・報告(50%)、学期末のレポート(50%)で評価を行う。 「発表・報告」については、使用された資料と、プレゼンテーションの内容をみる。 「レポート」は、問題意識と構成、取り上げられた論点の論述内容をみる。			
履修者への要望	アフリカ地域の歴史や事情について馴染みの薄い履修者もいるかもしれないが、できるだけ参考文献・URL等を参照して、アフリカ開発をめぐる問題について理解を深めてほしい。			
備考	履修者の研究関心により、各回に取り上げる事例を変更することもあります。 国際協力研究科国際協力専攻共通領域地域研究			

GSA0200400 中近東・アラブ地域特論		単位	開講期	担当教員
		2	2020年度 前期	池田 明史
テーマ内容	中東の現代政治がテーマである。2011年のいわゆる「アラブの春」や2014年以降の「イスラーム国」問題、シリア内戦、あるいはイラン核合意などで国際的な関心が集まる中、中東で生起するさまざまな事件や現象はそのまま国際社会の動乱・不安定に直結している。そうした状況を歴史的・構造的に把握するための材料を提供し、議論を深めることを主たる内容とする。			
到達目標	中東において現在進行中のさまざまな問題について基礎的な知識を獲得し、それらの現況に関して主体的な判断を行える視座の構築を目指す。			
授業時間外の学習(予習復習等)	新聞その他のメディアで、各回のテーマに関わる現地の状況・情勢について予め情報を得ておくこと。また、授業後には獲得した知見に基づいて分析すれば、現状はどのように理解できるかについて考察すること。			
授業計画	<p>第1回 「アラブの春」と中東地域研究 本講義の基本的視座を解説し、それがどのような根拠に基づくものであるのかを院生との質疑を通じて双方向・多方向的に議論する</p> <p>第2回 地域研究の視座：言語・植民地支配・オリエンタリズム 前回は引き続き、ともすればイデオロギー性・党派性に陥りやすい中東の地域研究について院生との双方向的な議論を通じて明らかにする</p> <p>第3回 パレスチナ問題①起源と構造 当該テーマについての一般的な背景、展開等について共有すべき知見を講義し、双方向・多方向的に質疑に答える</p> <p>第4回 パレスチナ問題②ナショナリズムから帝国主義へ 前回は踏まえて、ヨーロッパにおける国民国家的統合の論理とその帝国主義への変遷について各論点をグループワークで抽出し双方向・多方向的に議論する</p> <p>第5回 パレスチナ問題③アラブ民族主義 前二回は踏まえて、アラブ世界における汎アラブ主義の台頭とそのパレスチナ民族主義への変遷について各論点をグループワークで抽出し双方向・他方向的に議論する</p> <p>第6回 パレスチナ問題④シオニズム 前三回は踏まえて、ヨーロッパにおける反ユダヤ主義の展開とこれへの反動としてのシオニズムの思想と行動に関わる各論点をグループワークで抽出し双方向・多方向的に議論する</p> <p>第7回 パレスチナ問題⑤中東和平プロセス 前四回は踏まえて、院生が和平交渉の各アクターとなって双方向・多方向的にシミュレーションを行う</p> <p>第8回 石油資源と中東①エネルギー問題と国際社会 エネルギーの供給者としての中東と需要者としての国際社会との関係について一般的な背景、展開等を講義し、質疑に双方向・多方向的に答える</p> <p>第9回 石油資源と中東②石油レンティア国家 レント依存国家の構造について、院生各自が対象国家を選択しその間の異同をグループワークで双方向・多方向的に議論する</p> <p>第10回 イスラーム①宗教・社会・法 イスラームに関する基本的知見を講義・解説し、双方向・多方向的に質疑に答える</p> <p>第11回 イスラーム②革命と暴力 前回は踏まえて、院生各自がイスラーム過激主義に由来する政治変動を選択しその間の異同をグループワークで双方向・多方向的に議論する</p> <p>第12回 「アラブの春」再考 アラブの春についての通説につき一通りの解説を行い、それぞれが胚胎する矛盾をグループワークで双方向・多方向的に議論する</p> <p>第13回 核拡散問題と中東 核兵器等大量破壊兵器の拡散状況につき基本的な知見を講義した後、院生が中東の各アクターとなってシミュレーションを双方向・多方向的に行う</p> <p>第14回 主権・人権・介入 普遍的人権の普遍性について国家主権との関係や保護する責任論（R2P）との関連でグループワークで双方向・多方向的に議論する</p> <p>第15回 まとめ 全体を通して指導教員が講評しつつ院生との対論を双方向・多方向的に行う</p>			
教科書				
参考文献等				
成績評価の方法・基準	毎回の授業討論への貢献度と期末に行うレポートとを総合的に勘案して評価する			
履修者への要望				
備考	国際協力研究科国際協力専攻共通領域地域研究			

GSA0200100 東アジア地域特論		単位	開講期	担当教員
		2	2020年度 前期	望月 敏弘
テーマ内容	<p>テーマ：現代中国の政治・外交および日中関係を考える</p> <p>内容：いま、中国という巨大国家は爆発的な経済発展を達成し、国民の生活水準が向上する光の部分、一方で、民主化が停滞し、経済格差、環境汚染、汚職・腐敗が拡がり、一部少数民族地域、香港、台湾で反発が強まる陰の部分と同時に内包しています。授業では、多くの矛盾を抱えながらも急速に台頭する中国の内政・外交および日中関係について、主にテキストの輪読形式を通して、参加者の間で議論を進めながら、理解を深めていこうと思います。</p>			
到達目標	<p>グローバル・パワーと化し、日本の将来を考える際に非常に重要な存在となりつつある隣国・中国に関する基礎的知識を習得し、政治・外交および日中関係に対する総合的理解を得ることを目標とします。</p>			
授業時間外の学習(予習復習等)	<p>主に、テキストの予習・復習を通じて、中国の政治・外交および日中関係をめぐる諸問題への理解度を高める必要があります。同時に、新聞・テレビ・雑誌等より、最近の流動的な東アジア情勢全般、すなわち、日本・中国の動向はもちろんのこと、アメリカや台湾、香港、朝鮮半島などの動きにも絶えず目を配ってほしいと思います。</p>			
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 現代中国総論Ⅰ（講義）</p> <p>第3回 現代中国総論Ⅱ（講義）</p> <p>第4回 映像資料利用・解説Ⅰ（中国政治・外交）</p> <p>第5回 映像資料利用・解説Ⅱ（日中関係）</p> <p>第6回 参加者による発表・議論①</p> <p>第7回 参加者による発表・議論②</p> <p>第8回 参加者による発表・議論③</p> <p>第9回 参加者による発表・議論④</p> <p>第10回 参加者による発表・議論⑤</p> <p>第11回 参加者による発表・議論⑥</p> <p>第12回 参加者による発表・議論⑦</p> <p>第13回 参加者による発表・議論⑧</p> <p>第14回 参加者による発表・議論⑨</p> <p>第15回 総括・全体討論</p>			
教科書	<p>開講時まで、テキストの候補を複数、用意します。受講者と相談しながら、決定したいと思います。</p>			
参考文献等				
成績評価の方法・基準	<p>授業への姿勢（議論への参加度50%、報告内容50%）を総合して、評価をします。</p>			
履修者への要望	<p>積極的な授業参加を希望しています。</p>			

GSA0100200 研究手法ワークショップ		単位	開講期	担当教員
		2	2020年度 前期	福田 保
テーマ内容	<p>テキストの輪読を通じて、次の2点を学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究とは何か、学術論文とは何かなど、研究に関する基本的知識を学習します。 ・修士論文執筆に必要なとなる技法を修得します。 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科学系論文を執筆するにあたって必要な知識と技術の修得 ・研究の方向性（研究テーマ、リサーチクエスチョン、仮説など）の仮決め 			
授業時間外の学習（予習復習等）	<p>テキストを輪読しますので、毎週のテキストの読解、課題がある場合はその準備を行う必要があります。</p>			
授業計画	<p>第1回 ガイダンス ・毎回の報告担当者を決定します。</p> <p>第2回 研究の基礎知識①研究を始めるにあたって、研究テーマの決定 ・研究・学術論文とは何か、どのように研究テーマを決定するかを学びます。</p> <p>第3回 研究の基礎知識②先行研究レビュー ・自身の研究テーマにおいて、これまでどのような研究が行われてきたのでしょうか。資料・データの収集法を学びます。</p> <p>第4回 図書館の活用一図書館オリエンテーション ・大学院図書館とそのシステムの活用法について、ライブラリアンによるナビゲーションを企画します。</p> <p>第5回 研究の基礎知識③リサーチクエスチョンの立て方 ・論文には「問い」が必要です。リサーチクエスチョンの検討方法を学びます。</p> <p>第6回 研究の基礎知識④議論とエビデンスの提示 ・「議論」がなければ論文にはなりません。議論の提示、議論の裏付けとなるエビデンスの提示を学びます。</p> <p>第7回 研究の基礎知識⑤定量分析 ・定量分析とは何か、またその手法を学びます。</p> <p>第8回 研究の基礎知識⑥定性分析 ・定性分析とは何か、またその手法を学びます。</p> <p>第9回 修士論文の執筆に向けて①論文作成のルール ・論文の構成と書式、引用・注・図・表・参考文献の表記法を学びます。</p> <p>第10回 修士論文の執筆に向けて②論理的思考 ・論文構成の練り直し、議論の再確認、論文の見直しの重要性を学びます。</p> <p>第11回 修士論文の執筆に向けて③研究成果のまとめ方 ・研究成果をどのように表現するか、その方法を考えます。</p> <p>第12回 修士論文の執筆に向けて④研究成果の自己点検 ・まとめ</p> <p>第13回 履修者による研究計画の発表① ・履修者によるプレゼンテーション</p> <p>第14回 履修者による研究計画の発表② ・履修者によるプレゼンテーション</p> <p>第15回 履修者による研究計画の発表③ ・履修者によるプレゼンテーション</p>			
教科書 参考文献等	<p>明石芳彦（2018）『社会科学系論文の書き方』ミネルヴァ書房。（予定） 適宜紹介します。</p>			
成績評価の方法・基準	<p>・輪読、授業時の作業やディスカッションへの貢献、学期後半に履修者全員が行う発表等を総合的に評価します。</p>			
履修者への要望	<p>・輪読に基づいて質疑応答・ディスカッションをしますので、受講の準備を怠らないでください。</p> <p>・ワークショップを通じて、履修者自身の研究テーマ深めてゆくことを意識してください。</p>			
備考	<p>国際協力研究科国際協力専攻共通領域基礎科目</p>			